

第1章 仕事で活躍したい時

前田慶次	たとえ万戸候たりとも、心にまかせぬ事あれば匹夫に同じ、出奔せん……	12
上杉謙信	我は兵を以て戦いを決せん。塩を以て敵を屈せしむる事をせじ……	14
朝倉孝景	吉日をえらび、方角をととのえ、時日をのがすこと口惜しく候……	16
鍋島直茂	軍は敵の案に入らぬように覚悟すべし……	18
徳川家康	主人の悪事を見て諫言する家老は、戦場にて一番槍を突きたるよりも、遙かに増したる心緒なるべし……	20
小早川隆景	急用のことなり、静かに書すべし……	22
加藤藤明	常に不功者なりと思えば、仕そこないなきものなり……	24
木村重成	夫戦の勝敗は兵の多少にあらず……	26
豊臣秀吉	負ける負けると思えば負け 勝つ勝つと思えば勝つものなり……	28
武田信玄	風林火山……	30
明智光秀	仏の嘘をば方便といい、武士の嘘をば武略という……	32
柳生宗矩	平常心をもって一切の事をなす人、これを名人というなり……	34

毛利元就	謀りごと多きは勝ち、少なきは負け……	36
太田道灌	驕らざるもまた久しからず……	38

コラム	北条氏康の予言……	40
-----	-----------	----

第2章 人をまとめたい時

徳川家康	一軍の將たる者は、味方諸人のぼんのくばばかり見て居て、合戦に勝てる者にてはなし……	42
北条氏康	下の功労を偷まざれ……	44
細川忠興	家中の者どもは、将棋の駒と思ふべし……	46
伊達政宗	禍は内より起こりて、外より来たらず……	48
立花宗茂	居宅広大なれば端々の者は寄り付かぬものなり……	50
島左近	君近きを見て遠くに及さば、下民の幸ならん……	52
尼子経久	参謀には格を、武士には俸禄を……	54
加藤清正	上を学ぶ下、と言いて、大將少しくつろげば、下々は大きい油断するものなり……	56

北条早雲 上下万民に対し、一言半句にても、虚言を申すべからず…………… 58

真田信之 常に法度の多きは宜しからず…………… 60

朝倉孝景 人の主人は、不動・愛染のごとくなるべし…………… 62

武田信玄 人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり…………… 64

織田信長 人をを用うる者は能否を扱ふべし。何ぞ新古を論ぜん…………… 66

蒲生氏郷 知行と情は車の両輪、鳥の翅の如に候…………… 68

黒田孝高 天下最も多きは人なり。最も少なきも人なり…………… 70

吉田松陰 天下才なきに非ず、用うる人なきのみ、哀しいかな…………… 72

前田利家 同輩より下への状などは、慇懃に書くほど、
先方にてはなおなお忝く思うものなり…………… 74

コラム 上杉謙信の不思議…………… 76

第3章 自分に負けそうな時

坂本龍馬 日本をいま一度、せんたくいたし申し候…………… 78

島津斉彬 勇断なき人は事を為す能わず…………… 80

池田輝政 われ、身短小にして勇功あり…………… 82

柳生宗矩 われ人に勝つ道を知らず、われに勝つ道を知る…………… 84

上杉謙信 運は天にあり 鎧は胸にあり 手柄は足にあり…………… 86

山中鹿介 我に七難八苦を与え給え…………… 88

朝倉宗滴 巧者の大将と申すは、一度大事の後れに合いたるを申すべく候…………… 90

細川幽齋 学問は博く学ぶべきものなり…………… 92

陸奥宗光 事の失敗に屈すべからず、失敗すれば失敗を償う丈の工夫を凝すべし…………… 94

長宗我部元親 人は命よりも名を惜しむものぞ…………… 96

木戸孝允 人の巧を取って我が拙を捨て、人の長を取って我が短を補う…………… 98

北条早雲 少しの隙あらば、物の本をば、文字のあるものを懐に入れ、
常に人目を忍び見るべし…………… 100

島津義弘 たどえ討たれるといえども、敵に向かつて死すべしと思ふ…………… 102

坂本龍馬 世の中の人は何んとも言わば言え わが為すことは我のみぞ知る…………… 104

宮本武蔵 仏神は貴し。仏神をたのみず…………… 106

塚原卜伝 無手勝流…………… 108

第4章 人生に悩んだ時

山名宗全

およそ例という文字をば、向後は時という文字にかえて、

お心得あるべし……

112

中岡慎太郎

何ぞ一時貴賤を以て心を動かさんや……

114

小早川隆景

意見をしてみるに、直ちに請け合う者にその意見を保つ者なし……

116

宮本武蔵

我事において後悔をせず……

118

前田利家

金を持てば、人も世上も恐ろしく思わぬものなり……

120

福沢諭吉

心事 高尚ならざれば働きもまた高尚なるを得ざるなり……

122

徳川家康

人の一生は重荷を負て遠き道をゆくがごとし……

124

北条氏綱

人の命わづかの間なれば、むさき心底、ゆめゆめ、あるべからず……

126

織田信長

人間五十年、下天の内を比べれば、夢幻の如くなり……

128

伊達政宗

仁に過ぐれば弱くなる。義に過ぐれば固くなる。

130

礼に過ぐれば諂となる……

130

山内一豊

善き人の言をよく用いること……

132

伊達政宗

大事の儀は、人に談合せず、一心に究めたるが善し……

134

吉田松陰

大事を断せんと欲せば、先ず成敗を忘れよ……

136

井伊直政

天の与うるを取らざれば、かえってその災いを受くる……

138

徳川家康

天下は天下の天下なり……

140

鍋島直茂

律儀・正直にばかり覚えて、心が逼塞していては男業はなるべからず……

142

島津忠良

いにしえの道を聞きても唱えてもわが行いにせずば甲斐なし……

144

高杉晋作

おもしろきこともなき世をおもしろく……

146

コラム

武将たちの最期の言葉……

148

第5章 気持ち伝えたい時

明智光秀

いざ、お前を五十日のうちに輿に乗せる身分にして見せる……

150

伊達政宗

かりそめにも人に振舞うとあらば、料理第一を心得よ……

152

藤堂高虎

我が女房に情なくあたる者あり。大いに道に違いたることなり……

154

西郷隆盛

敬天愛人……

156

第1章

仕事で活躍したい時

毛利元就 三人の半、少しにてもかけこへだても候はば、

ただただ三人御滅亡と思召さるべく候……………158

西郷隆盛 児孫の為に美田を買わず……………160

細川ガラシャ ちりぬべき時知りてこそ世の中の花も花なれ人も人なれ……………162

本多重次 一筆申す。火の用心。お仙瘦さすな。馬肥やせ……………164

コラム 海外で活躍した武将……………166

第6章 武将列伝

伊達政宗……………上杉謙信……………北条早雲……………武田信玄……………171

織田信長……………徳川家康……………豊臣秀吉……………明智光秀……………175

毛利元就……………長宗我部元親……………前田利家……………加藤清正……………179

宮本武蔵……………柳生宗矩……………吉田松陰……………高杉晋作……………183

木戸孝允……………坂本龍馬……………西郷隆盛……………福沢諭吉……………187

年表……………188